

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392800104		
法人名	琴葉株式会社		
事業所名	グループホーム琴葉向陽(1階)		
所在地	愛知県碧南市向陽町1-54		
自己評価作成日	令和1年12月31日	評価結果市町村受理日	令和2年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.katgoken.sakuminiw.go.jp/23/index.php?action=you_detail_022_kani=true&ligvosvcId=2392800104-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和2年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭と同じように生活できる。入居者の自由な行動を束縛しないように、見守りをしっかりし、鍵をかける等の拘束をおこなわない。季節感のある生活をすごしていただき施設に入ったからでなくなったではなく、施設に入る前の生活が継続できるようにしていただく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は平成19年4月に開設され、1年を経過しようとしている。近隣には小・中・高校があり、保育園と隣接し毎日子どもたちの笑顔や笑い声に癒される環境にある。新興住宅や昔からの住宅の中に位置し、楽しい散歩コースにコンビニも位置づけられている。二階建ての事業所は明るく、最新の設備が整えられ住み心地よく、安心して暮らせる場となっている。会社の理念、『「スローライフ」ゆったりとした時間、空間の提供』を使命に、入居者と向き合い思いをくみ取りゆったりとしたケアに心がけている。地域情報を得て、盆踊りや初詣、体操や陶芸教室など多くの行事に入居者と共に参加し地域との関わりも積極的に行っている。ちらし寿司やハンバーグ、餃子、お弁当作りなどを行ったり、ユニット合同の昼食会や芋煮会、大根炊き、餅つきなど外での食事会をして、入居者の楽しい食事レクにも力を注いでいる。年賀状や特技のお手玉作り、趣味の詩吟を通じての付き合いなど、今までしてきたことを大事にし、今の生活の中でできるような支援にも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族的な生活環境をめざし、入居者一人一人に寄り添うようにしている。	会社の理念が玄関やパンフレット等に掲載してあるが、管理者や職員間で理念を認識し、共有して日々の業務につなげているかの確認は十分ではない。	法人の理念を基本に、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を、職員皆で話し合って作成し、その理念を共有して日々のケアにつなげることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園の園児との交流をもつ。保育参観をみにでかけたり餅つきの見学に来てもらった。町内会に入会し回覧板をまわしてもらい、地域の行事に参加する。盆踊りや初詣にでかけた。市内の行楽地へ外出レクにでかけた。	町内会に加入し回覧板や運営推進会議等で地域情報を得て、盆踊りや初詣、体操や陶芸教室等多くの行事に入居者と共に参加している。日々の散歩や外出でもできるだけ市内を散策するようにしている。今年度は地域の班長を務めることになり、地域の方々に教えを請いながら地域に溶け込むチャンスと捉えて努めることにしている。開設1年を迎えるにあたり、プチ内覧会を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に対して施設行事を告知して参加を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方に対して施設の取り組みを広報しそれぞれの立場のかたから意見をいただいている。	家族代表や地域住民、市職員、市議員、マッサージ師等が出席して2か月に1回行われている。運営状況や入居者の様子を報告し、参加者からは意見や提案、要望等を聞き、その場で話し合ったり職員会で話し合いサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1度の運営推進会議に参加いただき、意見をもらっている。運営上の不明点をといあわせしたり、密な関係を構築している。研修や講演会へ参加し顔の見える関係をきづいている。	市の担当者は運営推進会議に毎回出席している。開設間もないため、運営上の問題や不明点等指導を受けたり、アドバイスを受けるなど日頃から連絡を密に取り協力関係を築いている。行政から案内のある研修や講演会には積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の事例はないが行動抑制ともなる施錠を玄関や居室中に行わないよう努めている。言葉による行動抑制もしないように努力している。	月1回本社で行われる管理者会議で拘束に関する事業所の実態を報告している。「拘束適正化委員会」を3か月毎に開いている。玄関の施錠も夜間以外は行っていない。居間から玄関ホールに出る際、鈴や小鳥の鳴き声チャイムなどを利用し、見守りをしながら拘束感のない環境作りを工夫している。	「拘束適正化委員会」において、身体に関わる拘束のみではなく、「拘束とは何か」を基本から学ぶ試みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者に対しての身体虐待は当然行われていないが「言葉による虐待のないよう努めている。放置・ネグレクトを行わないようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者一人一人の権利擁護のために個人の尊重に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に料金や施設運営方針を話し、契約書进行をかわしている。料金改定時には入居者に説明し同意書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に1回の家族会で運営に関する意見をいただき、訪問時には状態を報告したりしてみつな関係を築いている。	入居者からは日々の関わりの中で、家族からは面会時や運営推進会議、家族会等で意見を聞き送りノートに記録して、カンファレンス等で話し合い運営に反映させている。また、法人による利用者満足度調査が行われている。意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を行い、運営に対する意見を取りいれている。行事計画をレク委員が提出し職員の意志を反映した施設運営をするようにしている	管理者は日々の業務中や申し送り時等でも意見や提案を出しやすい環境を整えている。必要時個人面談をしたり、年2回の人事考課で、じっくり職員の意見や提案、要望を聞く機会を設けている。出された意見や提案は会議で話し合い運営やサービス向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の就業規則に基づき労働環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修で職員のケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流会や勉強会に参加して、施設の状態等の告知をしている。ネットワークを作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護計画作成時のモニタリングで個々の要望等を聞き取るようにしている。普段の些細な会話の中からもその方の人となりを聴取するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の聞き取りや入居時の契約時に情報聴取に努めている。入居後も訪問されたときにはサービスに対する意見をいただいたり、受診の際は健康状態を伝えながらご家族と施設側とともに支えていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報収集と入居後の状態観察、モニタリングをして本人に対する必要サービスを提供する		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事の際やレクの際には一緒になって楽しむようにしている。業務のみではなくゆっくりとした時間をもち会話をふやすようにしている。そこで入居者様との密な関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族訪問時に様子を伝えたり、何かがあれば電話での連絡をしてタイムリーな様子を家族様にも伝えていくようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の今までの生活歴を家族から聴取しました。本人との日常会話からの情報収集で過去のなじみの場や人とのつながりを大切にしています。実践とし墓参り、寺参りに同行している。	本人の今までの生活歴や日常会話の中から情報を得て馴染みの人や場所との繋がりを大切に支援に努めている。家族の同意を得て友人と外出する方があったり、馴染みの美容院や墓参り、寺参りなどは家族の協力を得ながら同行支援をしている。特技のお手玉作りや趣味の詩吟を通じての付き合い、電話の取次ぎや年賀状を出す等の支援にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がこじれ、いいあい等になったときは間にスタッフが入り円滑な関係になるようにしていく。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後のフォローとして利用者の入居時の様子を伝え、また退去後の様子等をうかがっているようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にはモニタリングを行いながら一人一人の希望意向を把握するようにしている。利用者本位のくらしができるようにつとめている	日常の何気ない会話の中やおやつ時間の後、レクリエーション後等ゆっくりした時間を見計らい思いや意向を聞くようにしている。把握した希望や意向は申し送りノートに記録し共有してケアに役立てている。意思表示の困難な方からは表情や行動などから察し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活環境、人間関係、親子関係を把握しその人らしい生活していただけるようにしている。誕生日会への家族様参加を依頼したり毎月送る家族あてのお便りにはご様子や体重測定の結果をのせている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の暮らしの流を入居者様に理解していただけるように予定表を作成し掲示している 入居者にわかるようなものを作成していく		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングをし介護計画を作成している。それぞれのスタッフによる意見、アイデアを反映していくようにする。	月1回のカンファレンスで情報交換を行い、3か月に1回のモニタリングを経て6か月に1回見直しを行っている。家族や本人からの希望や要望、医療関係者からのアドバイス等を反映させながら職員とケアマネジャーが中心となって話し合い、現状に即した介護計画を作成している。状況に応じて随時の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録とし、介護計画書や申し送りに記入をしている、職員間で連携し情報の共有をしている。排泄記録や個別バイタル表を作成している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの変更を周知徹底しだれもが同じサービスをていきょうできるように努めていく		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今までの社会生活を踏襲し施設のまわりをとりまく地域環境の中で社会生活をいとなんでいた。町内会への参加や町内の行事に参加して、施設のアピールをしている。施設の見学も受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本、家族にお願いしている。往診は希望者のみうけている。施設としてのかかりつけ医はないが訪問看護の事業所が協力医療機関になっている。	入居前のかかりつけ医を継続し、受診は家族の協力を得ているが困難な場合は通院支援をしている。往診はかかりつけ医の入居者で希望者のみとなっている。訪問看護が月2回あり健康管理や家族とかかりつけ医間の対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は月2回訪問している。個々の入居者の情報を伝えアドバイスもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際には病院に情報を提供し連絡を密にとりあっている。退院時にはカンファレンスを依頼し入院時の状態と今後に向けての対応をとるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは基本行わないと、入居時の説明で家族には話している。状態の変化が起きた場合は家族に即時に連絡し対応を検討している	入居時に看取りは行わない旨家族に説明している。状態の変化が見られる場合は早い段階に家族に連絡をし、対応を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には家族に連絡を即時におこなっている。救急搬送時には職員が同行し情報を伝えている。緊急対応時のマニュアルを製作し職員間で情報共有している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルの作成と避難訓練を行い、職員間の連携と共有を行っている。役所への連絡情報を常に取り研修や訓練への参加を積極的に行っている	年2回、昼間の火災訓練と夜間の地震避難訓練を実施している。災害マニュアルは作成中である。市からの防災メールには常に目を通し、訓練や研修会には積極的に参加している。備蓄は準備されているが、品目や数量、消費期限等順次整えていく意向である。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	いつ起きるかわからない災害について地域や行政も対策を急いでいる昨今、事業所の災害マニュアル整備し、職員に周知を図ると共に訓練で実践し実用化を図られることを期待する。また、備蓄品等のリスト化を図り管理していくことを願いたい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保に努め排泄の声掛けや着替え時のプライバシーの確保をしていく	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。名前は「さん」付けで呼び、トイレや着替え時のプライバシー確保に留意している。親しさと馴れ馴れしさの違いを意識したり、いつ誰が聞いても不快を感じない言葉かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の選択をしていただいたり外出への参加希望をうかがったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	いままでされていたことを継続していただくために家事を手伝っていただいたり希望があれば外出をしていただいたりする、。睡眠時間の希望で起床時間も個人により宇		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の衣類の準備は入居者と職員が一緒にこなうようにしている。衣類は常にチェックし汚染のないものをきていただく		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に食事レクとしてちらし寿司・ハンバーグ・餃子・お弁当作り等をおこなっていただいている。その他合同昼食や施設前にて芋煮会・大根炊きをおこない外での昼食会、餅つき大会をおこなった。毎食事後の食器ふきをやっていただいたり、配膳や盛り付けをてつだっていただく	食材とメニューは業者委託となっている。定期的な食事レクや行事食などが多く取り入れられており、入居者の楽しみとなっている。メニューや食材を基本に、入居者の好みの物にアレンジしたり、代替え食も提供している。入居者は、個々の持てる能力やその日の気分に合わせて調理や盛り付け、食器拭きなどを職員と一緒にやっている。菜園で入居者と共に育てた野菜が食卓を飾ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面では食材業者の立てる献立を基本とし提供している。水分摂取は1日最低2回おやつ時にせしゅしていただき、希望があれば適宜水分ほきゅうをしていただく。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔のケアは毎食後におこない、また就寝時には入れ歯の洗浄を洗浄剤を使い行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ時の声掛けや見守りをおこない、全員トイレでの排泄をさせている	トイレでの排泄支援に努めている。個々の排泄パターンを把握し適切な声掛けにより、日中は全員がトイレでの排泄となっている。夜間のみポータブルトイレやオムツで対応する方がいる。便秘予防では、食べ物や運動、習慣等を重視しなるべく薬に頼らない支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防とし、薬剤に頼ることなく、牛乳や繊維質の物の摂取をしていただく。個々の状態を把握し排泄管理簿を作成している。未排便時は薬剤を使用される方もある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴をしていただき、個人のペースにあったゆったりとした入浴をおこなっている。入浴の曜日や基本としてあるが希望があればそれ以外の日にもにゆうよくをお声掛けする	週2回以上入浴支援としているが希望があれば応じている。足し湯等で湯の清潔に留意したり、冬季はヒートショック予防に注意し、個々のペースに合わせたゆったりした入浴支援に心がけている。ゆず湯やしょうぶ湯等季節の湯や入浴剤を使用する等湯の楽しみを提供している。入浴拒否をされる方には、声掛けや日時、介助者の変更などの工夫で対応する等、本人の意志を大切に支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のペースで入床をしてみえる。大晦日はテレビを見られる方に無理に就寝を強要せずゆったり過ごしていただいた		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が管理し誤薬のないよう、常に注意をしている。服薬の内容については薬じょうを管理している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎食後の食器ふきと洗濯物干しと洗濯たみをお願いしお一人お一人の役割となっている。塗り絵や歌をうたい体操をしていただき日々の生活の気分転換とされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回の全員外出にはなじみのある市内の行楽地にでかけていただいたり、買い物への同行をしていただく。ご希望があれば美容院への同行やお墓参りにもでかけた。	日々の散歩や近くのスーパーへの買い物に出かけている。月1回の全員外出には、馴染みのある市内の公園やイベント会場、飲食店等へ出かけている。家族の協力を得て外出される方もあるが、希望があれば美容院や墓参り等にも同行している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の保持はトラブルになるということもあり、入居時にお断りしている。外出レクでえびせん工場に出かけたときにはひとり100円をしようしていただき買い物レクを楽しんでいた		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については基本ご遠慮していただくよう家族に依頼しているが年賀状を全員に書いていただき家族あて送付した。個別でご家族から絵手紙をいただく方もある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はほとんど共有スペースで過ごされているので室温。換気等に気を付けている。インフルエンザも流行っているので時間での換気をおこなっている。壁の絵を共同で製作したり季節の飾りつけをしている、居室のネーム板やトイレの位置はわかりやすくしている。	共有スペースは明るく温度や湿度、換気や清掃等適切に行われ、臭いや不快な音もなく快適な空間となっている。皆が集う居間は広く、ソファやイスが適所に配置されゆったりくつろげるよう工夫されている。壁面には、職員と共に作成した季節の貼り絵や作品が飾られている。入居者はそれぞれの居場所で新聞を読んだり、テレビを観たり、談笑をしてゆったり過ごしている。	ベランダに通じる廊下に植木鉢が数個並べているが、いつ起きるかもわからない災害時に備えて、外部に通じる場所には物を置かない、また、玄関ホールやスロープなどには物を置かない様子を願いたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの席は決まっているが時々席替えをしたりしている。個々の人間関係を把握するようにしている、		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはなじみのものを置いていただくようにしているがあまり広いわけではないので入居時に最小限度とは依頼している。空調で環境整備に努めている。	入居時に使い慣れた家具や小物を持ち込み写真や手作りの作品を飾って自分らしい空間作りをしている。書斎風に机を備え、孫やひ孫の作品に囲まれながら、読書や書き物をされている方もいる。清掃は自分で行ったり職員と共に行っている。エアコンやカーテン、収納ボックスが設備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の人格を尊重できること、わかることを継続できるようにしている。歩行しやすいよう手すりの確保や車いすでのすれ違いのできる幅の広い廊下やトイレを確保している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392800104		
法人名	琴葉株式会社		
事業所名	グループホーム琴葉向陽(2階)		
所在地	愛知県碧南市向陽町1-54		
自己評価作成日	令和1年12月31日	評価結果市町村受理日	令和2年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2392800104-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和2年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭と同じように生活できる。入居者の自由な行動を束縛しないように、見守りをしっかりし、鍵をかける等の拘束をおこなわない。季節感のある生活をすごしていただき施設に入ったからでなくなったではなく、施設に入る前の生活が継続できるようにしていただく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は平成19年4月に開設され、1年を経過しようとしている。近隣には小・中・高校があり、保育園と隣接し毎日子どもたちの笑顔や笑い声に癒される環境にある。新興住宅や昔からの住宅の中に位置し、楽しい散歩コースにコンビニも位置づけられている。二階建ての事業所は明るく、最新の設備が整えられ住み心地よく、安心して暮らせる場となっている。会社の理念、『「スローライフ」ゆったりとした時間、空間の提供』を使命に、入居者と向き合い思いをくみ取りゆったりとしたケアに心がけている。地域情報を得て、盆踊りや初詣、体操や陶芸教室など多くの行事に入居者と共に参加し地域との関わりも積極的に行っている。ちらし寿司やハンバーグ、餃子、お弁当作りなどを行ったり、ユニット合同の昼食会や芋煮会、大根炊き、餅つきなど外での食事会をして、入居者の楽しい食事レクにも力を注いでいる。年賀状や特技のお手玉作り、趣味の詩吟を通じての付き合いなど、今までしてきたことを大事にし、今の生活の中でできるような支援にも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族的な生活環境をめざし、入居者一人一人に寄り添うようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園の園児との交流をもつ。保育参観をみにでかけたり餅つきの見学に来てもらった。町内会に入会し回覧板をまわしてもらい、地域の行事に参加する。盆踊りや初詣にでかけた。市内の行楽地へ外出レクにでかけた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に対して施設行事を告知して参加を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方に対して施設の取り組みを広報しそれぞれの立場のかたから意見をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2カ月に1度の運営推進会議に参加いただき、意見をもらっている。運営上の不明点をといあわせしたり、密な関係を構築している。研修や講演会へ参加し顔の見える関係をきづいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の事例はないが行動抑制をもなる施錠を玄関や居室中に行わないよう努めている。言葉による行動抑制もしないように努力している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者に対しての身体虐待は当然行われていないが「言葉による虐待のないよう努めている。放置・ネグレクトを行わないようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者一人一人の権利擁護のために個人の尊重に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に料金や施設運営方針を話し、契約書かわしている。料金改定時には入居者に説明し同意書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に1回の家族会で運営に関する意見をいただき、訪問時には状態を報告したりしてみつな関係を築いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を行い、運営に対する意見を取りいれている。行事計画をレク委員が提出し職員の意志を反映した施設運営をするようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の就業規則に基づき労働環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修で職員のケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流会や勉強会に参加して、施設の状態等の告知をしている。ネットワークを作っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護計画作成時のモニタリングで個々の要望等を聞き取るようにしている。普段の些細な会話の中からもその方の人となりを聴取するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の聞き取りや入居時の契約時に情報聴取に努めている。入居後も訪問されたときにはサービスに対する意見をいただいたり、受診の際は健康状態を伝えながらご家族と施設側とでともに支えていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報収集と入居後の状態観察、モニタリングをして本人に対する必要サービスを提供する		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事の際やレクの際には一緒になって楽しむようにしている。業務のみではなくゆっくりとした時間をもち会話をふやすようにしている。そこで入居者様との密な関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族訪問時に様子を伝えたり、何かがあれば電話での連絡をしてタイムリーな様子を家族様にも伝えていくようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の今までの生活歴を家族から聴取した本人との日常会話からの情報収集で過去のなじみの場や人とのつながりを大切にしてい。実践とし墓参り、寺参りに同行している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がこじれ、いいあい等になったときは間にスタッフが入り円滑な関係になるようにしていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後のフォローとして利用者の入居時の様子を伝え、また退去後の様子等をうかがっていくようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にはモニタリングを行いながら一人一人の希望意向を把握するようにしている。利用者本位のくらしができるようにつとめている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活環境、人間関係、親子関係を把握しその人らしい生活していただけるようにしている。誕生日会への家族様参加を依頼したり毎月送る家族あてのお便りにはご様子や体重測定の結果をのせている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の暮らしの流を入居者様に理解していただけるように予定表を作成し掲示している 入居者にわかるようなものを作成していく		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングをし介護計画を作成している。それぞれのスタッフによる意見、アイデアを反映していくようにする。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録とし、介護計画書や申し送りに記入をしている、職員間で連携し情報の共有をしている。排泄記録や個別バイタル表を作成している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの変更を周知徹底しだれもが同じサービスをていきょうできるように努めていく		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今までの社会生活を踏襲し施設のまわりをとりまく地域環境の中で社会生活をいとなんでいた。町内会への参加や町内の行事に参加して、施設のアピールをしている。施設の見学も受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本、家族にお願いしている。往診は希望者のみうけている。施設としてのかかりつけ医はないが訪問看護の事業所が協力医療機関になっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は月2回訪問している。個々の入居者の情報を伝えアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際には病院に情報を提供し連絡を密にとりあっている。退院時にはカンファレンスを依頼し入院時の状態と今後に向けての対応をとるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは基本行わないと、入居時の説明で家族には話している。状態の変化が起きた場合は家族に即時に連絡し対応を検討している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には家族に連絡を即時におこなっている。救急搬送時には職員が同行し情報を伝えている。緊急対応時のマニュアルを制作し職員間で情報共有している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルの作成と避難訓練を行い、職員間の連携と共有を行っている。役所への連絡情報を常に取り研修や訓練への参加を積極的に行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保に努め排泄の声掛けや着替え時のプライバシーの確保をしていく		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の選択をしていただいたり外出への参加希望をうかがったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	いままでされていたことを継続していただくために家事を手伝っていただいたり希望があれば外出をしていただいたりする、。睡眠時間の希望で起床時間も個人により宇		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の衣類の準備は入居者と職員が一緒におこなうようにしている。衣類は常にチェックし汚染のないものをきていただく		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に食事レクとしてちらし寿司・ハンバーグ・餃子・お弁当作り等をおこなっていただいている。その他合同昼食や施設前にて芋煮会・大根炊きをおこない外での昼食会、餅つき大会をおこなった。毎食事後の食器ふきをやっていただいたり、配膳や盛り付けをてつだっていただく		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面では食材業者の立てる献立を基本とし提供している。水分摂取は1日最低2回おやつ時にせしゅしていただき、希望があれば適宜水分ほきゅうをしていただく。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔のケアは毎食後におこない、また就寝時には入れ歯の洗浄を洗浄剤を使い行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ時の声掛けや見守りをおこない、全員トイレでの排泄をされている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防とし、薬剤に頼ることなく、牛乳や繊維質の物の摂取をしていただく。個々の状態を把握し排泄管理簿を作成している。未排便時は薬剤を使用される方もある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴をしていただき、個人のペースにあったゆったりとした入浴をおこなっている。入浴の曜日や基本としてあるが希望があればそれ以外の日にもにゅうよくをお声掛けする		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のペースで入床をしてみえる。大晦日はテレビを見られる方に無理に就寝を強要せずゆったり過ごしていただいた		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が管理し誤薬のないよう、常に注意をしている。服薬の内容については薬じょうを管理している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎食後の食器ふきと洗濯物干しと洗濯たみをお願いしお一人お一人の役割となっている。塗り絵や歌をうたい体操をしていただき日々の生活の気分転換とされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回の全員外出にはなじみのある市内の行楽地にでかけていただいたり、買い物への同行をしていただく。ご希望があれば美容院への同行やお墓参りにもでかけた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の保持はトラブルになるということもあり、入居時にお断りしている。外出レクでえびせん工場に出かけたときにはひとり100円をしようしていただき買い物レクを楽しんでいた		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については基本ご遠慮していただくよう家族に依頼しているが年賀状を全員に書いていただき家族あて送付した。個別でご家族から絵手紙をいただく方もある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はほとんど共有スペースで過ごされているので室温。換気塔に気を付けている。インフルエンザも流行っているので時間での換気をおこなっている。壁の絵を共同で製作したり季節の飾りつけをしている、居室のネーム板やトイレの位置はわかりやすくしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの席は決まっているが時々席替えをしたりしている。個々の人間関係を把握するようにしている、		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはなじみのものを置いていただくようにしているがあまり広いわけではないので入居時に最小限度とは依頼している。空調で環境整備に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の人格を尊重しできること、わかることを継続できるようにしている。歩行しやすいよう手すりの確保や車いすでのすれ違いのできる幅の広い廊下やトイレを確保している		